

## 第3回理事会(臨時) 議事概要

1 開催日時 令和2年9月8日(火) 15時00分～16時05分

2 開催場所 Japan Sport Olympic Square13階 ブロンズ(東京都・新宿区)

次の理事は、Web会議システム(インターネット回線を使用した音声と映像を伝達するシステム)により参加した。

田嶋幸三	友添秀則	伊藤雅俊
上野広治	大河正明	大塚眞一郎
北野貴裕	高田裕司	高橋尚子
野端啓夫	星野一朗	室伏広治
山口香		

3 出席者 理事総数 26名

出席理事 23名(代表理事を含む。)

会長	山下泰裕	副会長	田嶋幸三
副会長	松丸喜一郎	専務理事	福井烈
常務理事	尾縣貢	常務理事	靱井圭子
常務理事	友添秀則	常務理事	細倉浩司
理事	伊東秀仁	理事	伊藤雅俊
理事	上野広治	理事	大河正明
理事	大塚眞一郎	理事	北野貴裕
理事	小谷実可子	理事	高田裕司
理事	高橋尚子	理事	野端啓夫
理事	古谷利彦	理事	星野一朗
理事	南和文	理事	室伏広治
理事	山口香		

監事総数 2名

出席監事 有竹隆佐、塗師純子

なお、飯坂紳治監事は15時55分頃より出席。

4 議事の経過の要領及びその結果

### 【山下会長挨拶】

- 7月27日に独立行政法人国際協力機構(JICA)との連携協定を締結し、8月27日にはJICA職員並びに隊員約250名に対してWeb上で講演を行った。今後は加盟団体(NF)と協働し、スポーツを通じた国際交流、国際貢献活動を通して、各国・地域オリンピック委員会(NOC)との連携も深めていきたい。
- 7月31日には、澤野アスリート委員長を中心に、東京2020大会を目指すアスリート19競技61名が参加するアスリートミーティングを開催した。アスリートの現状の共有や組織委員会からの大会準備報告を行い、東京2020大会に向けた準備に前向きに取り組んでいくよい機会となった。同日のバッハIOC会長とのWebミーティングでも本取り組みを報告した。
- 8月23日には、国立競技場にてNFの公認競技大会として初めてのセイコーゴールデングランプリ陸上が開催された。ハンドボール、柔道、トライアスロン等、秋以降も多くの国内・国際大会開催が予定されている。安全、安心に実施できる対策に万全を尽くし、東京2020大会にむけた機運を醸成し、盛り上げていきたい。
- 8月31日には、日本オリンピックミュージアム(JOM)に聖火が到着した。来館者も増加し、来館者からは東京2020大会開催に対して前向きなコメントが寄せられている。

- ・9月4日には、内閣官房主催の東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議が開催され、9月11日には、橋本東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会担当大臣主催のNFとの新型コロナウイルス感染症対策に関する連絡会議が予定されている。

(1)第1号議案 規程の改訂について

1)令和元年度 JOC スポーツ賞の表彰方法について

第1回理事会で決定した令和元年度 JOC スポーツ賞の表彰式は、10月開催のオリンピックコンサート席上での実施を予定していたが、同コンサートが中止となった。本会財政状況も踏まえた上で改めて表彰専門部会にて検討し、表彰方法等について、①表彰式は今年度中に実施、②正賞（賞状）の形式の変更、③副賞（メダル）の廃止、④副賞（トロフィー）の一部変更、⑤正賞・副賞の個別輸送、⑥受賞者コメント動画等（個別依頼）の公式サイト、SNSでの展開とし、また、副賞（報奨金）については従来通りとすることとした。

2)JOC スポーツ賞規程の改定

表彰方法等の変更に伴い、JOC スポーツ賞規程 第3条 (2) を一部改定する。

新	旧	備考欄
<p>第3条 (2) 年度賞は、本会加盟団体の選手・指導者を対象とし、当該年度において優れた成果を挙げた個人または団体に授与し、最優秀賞－1、優秀賞－若干、新人賞－若干、特別功労賞－若干、特別荣誉賞－若干の5種類とする。受賞者には、いずれも正賞（賞状）、副賞（<del>メダル</del>、トロフィー、報奨金）を授与する。</p> <p>附 則 … 4 この規程は、平成29年5月8日から施行する。 5 この規程は、令和2年9月8日から施行する。</p>	<p>第3条 (2) 年度賞は、本会加盟団体の選手・指導者を対象とし、当該年度において優れた成果を挙げた個人または団体に授与し、最優秀賞－1、優秀賞－若干、新人賞－若干、特別功労賞－若干、特別荣誉賞－若干の5種類とする。受賞者には、いずれも正賞（賞状）、副賞（メダル、トロフィー、報奨金）を授与する。</p> <p>附 則 … 4 この規程は、平成29年5月8日から施行する。</p>	

【決議内容】

- 1)令和元年度 JOC スポーツ賞の表彰方法。
- 2)JOC スポーツ賞規程の改定。

(2)第2号議案 委員の変更について

1)選手強化本部委員の変更について

一般財団法人日本航空協会より、選手強化本部委員について、変更届が提出された。

2)総務本部委員の変更について

公益社団法人日本馬術連盟、公益社団法人日本カヌー連盟、一般社団法人日本バイアスロン連盟及び公益社団法人日本パワーリフティング協会より、総務本部委員について変更届が提出された。

3)ナショナルトレーニングセンター(NTC)委員の変更について

公益社団法人日本馬術連盟より、NTC 委員について、変更届が提出された。

【決議内容】

- 1)選手強化本部委員 大山拓也氏より高津良彦氏へ変更（日本航空協会）
- 2)総務本部委員 木口明信氏より松本謙氏へ変更（日本馬術連盟）

- 柳澤尚夫氏より岩上禎宏氏へ変更（日本カヌー連盟）  
山瀬綾乃氏より高尾広通氏へ変更（日本バイアスロン連盟）  
石本直樹氏より古城資久氏へ変更（日本パワーリフティング協会）  
3)NTC 委員 木口明信氏より松本謙氏へ変更（日本馬術連盟）

## 5 報告事項

報告事項について、以下の通り補足説明がなされた。

### (1) 中期計画について

現状把握の一つの施策として、9月から10月を目途にアンケート調査を実施し、集計結果を参考に中期計画の柱建てを検討する。アンケート調査は、毎年実施し、今回は、東京2020大会終了後を予定している。

#### 【主な意見】

定期的なアンケート調査は結果の信頼性を確保するため、回答者の年齢、居住地域、ジェンダーバランス等が偏らないように対象を抽出いただきたいとの意見があり、調査方法はWebで行い、対象者は15歳から70歳までの約2,000名予定であることが説明された。

### (2) 選手強化本部関係について

緊急事態宣言解除後、NTCでは段階的に利用を始め、東京2020大会に向けてアスリートが集中して取り組める環境を整えている。現在、新型コロナウイルス感染症防止のため、9月末までは東京2020大会代表候補選手、ナショナルチーム所属選手、指導者に限り利用可能とし、ジュニアアスリートは利用を控えている。また、宿泊は全部屋シングルユースとすることを選手強化常任委員会において承認いただいた。なお、上記方針の適用期間は、10月から12月までとしている。感染予防並びに様々な事態への対応について、日本スポーツ振興センター(JSC)、日本パラリンピック委員会(JPC)とともに連携し、取り組んでいく。

### (3) 総務本部関係について

#### 1) オリンピック・ムーブメント専門部会関係について

9月1日から聖火をJOM1階に展示。8月31日にセレモニーを実施し、メディアにも多く露出したことから来館者も増えている。

9月14日のJOM開館1周年を記念して、①山下会長とオリンピック伊藤華英氏の対談、②シンボルアスリートによるメッセージ発信③文化庁メディア芸術エンターテインメント部門対象を受賞した「Shadows as Athletes」製作者のインタビューのWeb発信を計画している。併せて、11月よりアントワープ1920大会の特別展を企画している。

#### 2) アントラージュ専門部会関係について

来る9月27日にオンライン会議にて、トップレベルのジュニアアスリートの保護者を対象としたセミナーを開催する。本セミナーは令和2年2月24日開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、延期していた。

### (4) アスリート委員会関係について

7月31日に、東京2020大会の出場を目指すアスリートを対象にオンラインでアスリートミーティングを実施した。大会1年延期を受けて、アスリート委員会としてアスリートの力になれる事はないか検討を進める中で、アスリートが不安な気持ちを抱いていることや、大会に対するモチベーションの低下に悩んでいるといった声があり、アスリートの現状の共有、意見交換の場を設ける事で、少しでもその不安が払拭したいと考え開催した。ミーティングには19競技61名のアスリートが参加し、競技の垣根を越えて意見交換、情報共有を行った。東京2020組織委員会から大会準備状況について情報共有を行い、大会に向けた不安の払拭、大会を準備いただく方々

への感謝の気持ちが生まれるよい機会になった。『アスリートが出来ること』についての意見交換で出たアイディアは、アスリートからの貴重な意見として、実現に向けて検討、準備を進めていきたい。最後に、山下会長からアスリートへメッセージをいただいた。引き続き、アスリート委員会として様々な施策に取り組んでいきたい。

#### 【主な意見】

当日ミーティングに参加し、現場の声を興味深く聞いた。IOCのアスリートフォーラムにもバツハ IOC 会長が参加し、会長との質疑応答が行われているように、今後も山下会長が直接アスリートの声を聴く場を設けてほしい。

#### (5)東京 2020 オリンピック・パラリンピック関係について

去る 7 月 17 日に開催された IOC 総会にて、新たな競技日程が承認され、原則競技スケジュール等は変更せず、日程を 1 日前倒し、同一会場で実施することとなった。9 月 24 日及び 25 日に開催される IOC 調整委員会にて、大会の簡素化、スリム化を中心に議論する予定だが、アスリートの参加人数、実施競技数は簡素化の対象としない。

新規スポンサーについて、オフィシャルサポーターに東武スカイツリー株式会社が決定し、パートナーは全 67 社となった。また、大会延期に伴い、スポンサー各社に対して経緯、経過を説明し、契約延長に向けた折衝を始めている。

NOC には、大会延期の決定後、大会に向けたロードマップを説明し、レートカード、宿泊並びにチケット等の手続き情報を提供している。併せて、6 月から 7 月にかけて 188 の NOC と 1 対 1 のミーティングを実施した。10 月 12 日より、選手団長ウェビナーを英語、フランス語、スペイン語の 3 か国語で実施する予定である。

新型コロナウイルス感染症対策について、9 月 4 日に政府、東京都、組織委員会、JOC、JPC が参加する新型コロナウイルス感染症対策調整会議が開催され、組織委員会から、アスリートの出国・入国時、事前キャンプ中、国内移動時、入村時の体調チェック・手続き、滞在中の行動規範、競技会場内外での体調チェック等の予防的観点並びに陽性反応が出た場合の選手、チーム、会場、濃厚接触者の対応等事態対応の課題を説明した。今後も検討を進め、2020 年内に中間報告を予定している。

#### 【主な意見】

対策調整会議は安全、安心に大会が開催できる方法を検討する前向きな会議であった。JOC はアスリートが競技に集中できる環境を整えられるよう、アスリートの立場を尊重し東京 2020 大会の開催に向けて全力で取り組んでいく。また、アスリートの不安を取り除き大会を開催することを前提としてあらゆる工夫をする決意を示し、アスリートの思いを代弁していく。具体的要望として、PCR 検査体制の充実と、アスリートの出入国管理について意見を述べた。競技力強化の観点からトレーニングに支障がでないようなルール策定が NF 現場からも期待されている。大会開催に向けて、スポーツ界、政府、東京都、組織委員会、JPC とともに、不退転の覚悟、決意で開催に向けて進んでいきたい。

#### (6)その他

##### 1) 加盟団体について

日本レスリング協会の専任コーチ謝金の流用について、当時の指導者から文書を受領し、協会に調査を依頼したこと、また調査方法や手順について協会とやりとりしていることが報告された。

以上